

3-8

多職種協働

新たな取り組み

多職種で取り組む、褥創を作らない！ケア

上北沢ホーム手作り「穴あきパット」試用を通して

世田谷区立特別養護老人ホーム 上北沢ホーム

発表者：看護主任 藤原 心さ子	共同研究者：介護フロア担当主任 三友 一仁
所在地：世田谷区上北沢1-28-17	管理栄養士 曾我 小百合 機能訓練指導員 落合 美夏

TEL：03-3306-5155	E-mail：a_morikawa@setagayaj.or.jp
FAX：03-3306-1222	URL： www.setagayaj.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要 10p	世田谷区社会福祉事業団が運営する区立施設で、利用定員100名にショートステイが1日定員20名です。多職種協働により個別ケアの徹底実施に取り組む一方、褥創ケアや感染症予防等を含めた健康維持体制の充実を重要課題に掲げています。
--------------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>目標：褥創等の皮膚トラブルの解消と予防を図る 特に、予防策の強化、改善及び悪化を繰り返す利用者への有効なケア方法創出や体制づくりに多職種で取り組む</p> <p>〈具体的な取り組み〉</p> <p>【試用前の状況】</p> <p>〈利用者〉</p> <p>利用者100名。平均要介護度4.3。平均年齢89歳。褥創有者11名（発赤繰返しのリスク大者含む）。</p> <p>【試用前の褥創ケアに関する状況】</p> <p>発生箇所は仙骨部が大多数。</p> <ul style="list-style-type: none">・処置は主にリント布保護、ラップ療法。看護師が担当。・改善・防止策として栄養、良肢位保持等多角的に実施。・悪化速度が速い。 <p>【試用内容の要点】</p> <ul style="list-style-type: none">・開始評価基準に基づく対象者には、通常の尿とりパットを、手作り「穴あきパット」に替えて創部にあてる。排泄介助の一環として介護職員も褥創ケアに参画。・医師の指導を受けた看護師中心に介護職員等他職種と共同学習し、目的・観察要点・ケア方法等を標準化。・使用開始と終了は看護師が判断。各基準を作成。・評価は独自基準を基に多職種により、こまめに実施。・「穴あきパット」作成手段の確保（ボランティア等）・試用期間：平成21年5月8日～6月30日	<p>【実施準備】</p> <ul style="list-style-type: none">・医師との相談、指導助言・試用計画の作成、学習・家族懇親会にて家族説明、了解を得る・試用開始基準・終了基準と評価指標の検討、作成・職員へ実施手順の周知・穴あきパット作成方法の周知と作成手段の確保 <p>【試用対象者】</p> <p>試用期間中延べ26名</p> <p>〈試用の結果〉</p> <ol style="list-style-type: none">1 26名中全員に創の程度改善がみられた。2 治癒により穴あきパットを外すと、すぐ発赤する利用者に継続使用すると発生なし。予防効果有と判断。3 低コスト。（穴あきパット）＜（尿とりパット）。4 穴あきパット試用により、看護師のみで行っていた褥創処置を、「褥創に関するケア」と改め、介護職員等他職種との協働ケア体制を作ることができた。結果、褥創に対する施設総体の観察力が向上し、早期発見・早期対応の体制につながった。5 試用内容については、試用期間終了後は、施設としてのケア体制として取り組んでいく。 <p>〈今後の課題〉</p> <p>ひきつづき個別ケアの一環として、栄養、姿勢保持等複数視点から多職種アプローチ⇒褥創を作らない！ケアの推進に取り組む。</p>
---	---

【メモ欄】
